

釧路をたどる。桜木紫乃作品の舞台である北海道「釧路」周辺から、ぜひ巡ってもらいたいスポットをまとめました。

※番号は中面の地図の場所と対応しています。

90分コース



150分コース



桜木紫乃 作品・著作 紹介



発行／釧路市産業振興部観光振興室 電話0154-31-4549 北海道釧路市黒金町7丁目5番地
※このマップは一般財団法人空港環境整備協会の助成を受けて作成しました。(2013年12月)

第149回 直木賞受賞作家 桜木紫乃作品舞台マップ

このまち 彼女が見た釧路 ～桜木紫乃作品から見る景色～

第149回 直木賞受賞作



ホテルローヤル
(2013年1月/集英社)

釧路湿原 (空撮)

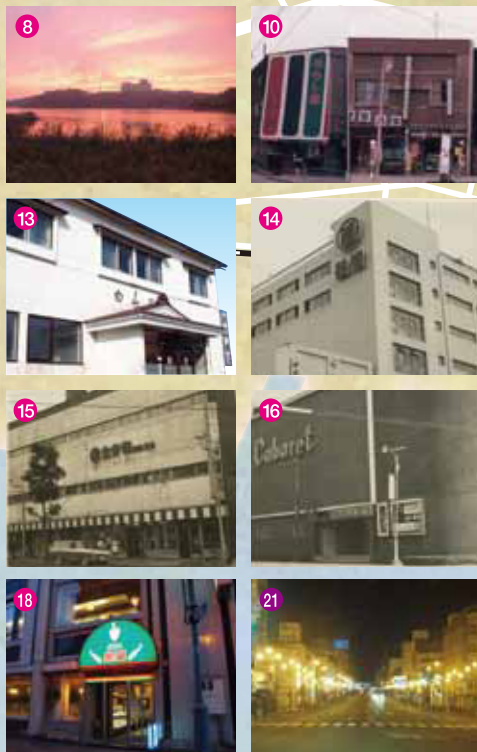
桜木紫乃作品
舞台マップ

釧路市・釧路町

kushiro

浮かんだ風景を、このまちで感じる。

釧路市出身の作家・桜木紫乃。著書には釧路の風景がふんだんに散りばめられている。ふるさとである釧路市の知名度、イメージの向上を図るため、2013年9月22日、市より「釧路市観光大使」に任命される。彼女の感じたふるさとへの思いを、作品から感じて欲しい。



ラブレス

8 春採湖

釧路の市街地の中にあり、ヒバノの生息地として昭和12年に国の天然記念物に指定され、市民の憩いの場として親しまれている湖。周辺は春採公園として指定されており、ネイチャーセンターなども設置されている。

9 スリ山

スリ山とは、石炭等の採掘に伴い発生する捨石の集積場。今でも操業を続ける釧路コールマイン側からほど近い場所に位置するスリ山は、炭鉱のまちの姿を象徴する景観である。

10 清水理髪店 (現在は駅前の補聴器店)

物語当時の成長を続ける北大通にあり、作中で重要な起点となる理髪店。現在は別の建物となっているが、当時はかなりの人気店であった。

11 釧網本線

釧路駅から、網走市の網走駅を結び、鉄道路線。釧路湿原ノロッコ号が釧路駅―塘路駅間で、SL冬の湿原号が釧路駅―標茶駅間で運行。※時期により川湯温泉駅まで延伸されている。

12 産業道路

釧路・根室管内の住民から「産業道路」という愛称で呼ばれている。釧路市から標津町まで続く国道272号を指す。現在でも釧路市中心部への物流や移動の中核を担っている。

13 白山湯

大正元年創業。古くから北大通周辺で市民の憩いの場として栄える銭湯。昼間は天窓からの自然光が満ち、お客同士がとも仲が良いのが白山湯。お互いの背中を流しあうのも日常の光景。

14 丸三鶴屋

昭和5年、現在の北大通に開店した百貨店。平成8年に丸井今井の子会社となったが、平成18年に丸井今井釧路店の撤退が決まり、丸三鶴屋も完全閉店となった。当時は本館と新館に分かれ、ショッピングの中心と言えるスポットであった。

15 金市館 (現在はホテルルートイン)

北海道の丸友産業が経営する百貨店で (のちにラルズへ合併され存続)、当時は釧路駅を出てすぐのところにあった。最盛期の釧路は駅前から繁華街までたくさんの大型店がひしめき合っていた。

16 銀の目 (現在は有料駐車場)

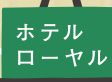
1958年にオープンした。当時は釧路で初といわれているキャパレー。港町だけあり羽振りの良い漁師などの出入りも大変多く、かなりのにぎわいを見せていた。繁華街末広を代表する店舗であった。

17 栄町交番

栄町平和公園の角に位置し、昔からのランドマーク的存在となっている交番。公園には噴水が設置され、夏場は子供たちで賑わっている。

18 泉屋のスパカツ

釧路へ来た際はぜひ一度度してみたい、釧路のソウフードと呼べる一品。アツアツに熱せられた鉄板の上に、太目の麺とカツを乗せ、その上にミートソースがたっぷり。古くから地元民の空腹を満たしてきた。



19 ホテルローヤル

釧路湿原を臨む高台の中に位置した筆者の実家の経営するホテル。現在は存在しないが、自然に囲まれた立地と、利用する男女のもたらす悲哀が若き筆者へさまざまな心情的影響を与えた。

20 釧路川

日本最大の湿地である釧路湿原を育む一級河川。全国各地からカヌーの愛好家やってくる。ホテルローヤルの部屋から見た、湿原を蛇行する様子が描写されている。

21 北大通13丁目

釧路駅に降り立った人々が最初に見る釧路の風景。古くから経営されている歴史ある店舗も多い。幣舞橋へ足を向けると、どこかレトロを感じさせる雰囲気を楽しめるだろう。

22 丹頂鶴

乱獲によって姿を消したとされていたが、1952年に「釧路のタンチョウ」として特別天然記念物に指定され、今でも保護増殖活動が続けられている。作中の人物の晴れ晴れしい気持ちを表すかのような、高く飛ぶ姿はとても優雅で郷土の誇りである。

23 釧路市役所

作中、登場人物の一人が過去勤めていたのがこの場所である。観光・名産品など、地域の情報は1階ロビーのコーナーに設置されている各種パンフレットでも入手することができる。

24 サンマ漁船

港町釧路の誇る特産品の一つがサンマ。旬の時期は8〜10月となる。作品に登場するミコの夫のような漁師のみならず加工業者、流通業者が釧路の経済を作ってきた。

ターミナル

25 釧路港

かつては水揚げ量日本一を誇っていた釧路港。現在も日本有数の港として、多くの漁船で賑わう。港の近くには、漁業の歴史を学ぶことができる施設「マリノ・トボスくしろ」がある。

26 釧路市生涯学習センター (まなぼと幣舞)

コンサートやレクリエーションに至るまで、様々なイベントや市民活動が行われる多目的ホール。9階のレストランから見る景色は、釧路を代表する眺めである。

27 繁華街

作中の繁華街とは、釧路駅前からほど近い末広町を指す。老舗の料亭、居酒屋、バーなどがひしめき合う道東でも有数の規模。新鮮な素材が豊富で、旅行者の舌を満足させる。

釧路はどこにある？

東京・関東圏から釧路へ

羽田空港→釧路空港は1日6往復。
たんちよう釧路空港
<http://www.kushiro-airport.co.jp/>

札幌・道央圏から釧路へ

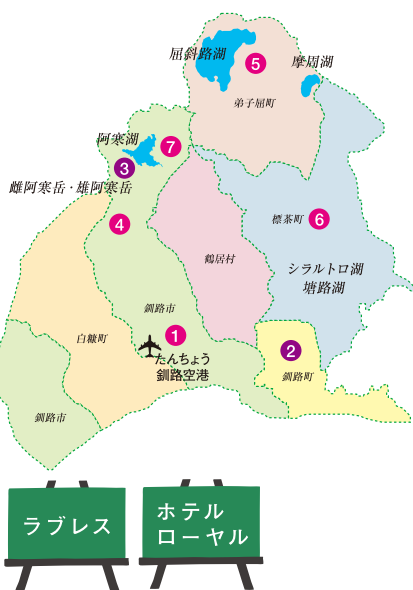
■高速道路
札幌・道央圏から道東まで一気に抜ける快適さ。NEXCO 東日本
<http://www.e-nexco.co.jp/>

■飛行機

札幌→釧路/新千歳→釧路 各3往復
たんちよう釧路空港
<http://www.kushiro-airport.co.jp/>

■JR

札幌→釧路 1日6往復
JR釧路駅
<http://www.jrkushiro.jp/index.html>



1 釧路市

国立公園である釧路湿原、世界三大夕日の一つといわれている釧路の夕日、特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」、「タンチョウ」など、観光資源に溢れた都市。海産物やザンギ、スパカツ、釧路ラーメンなどのご当地グルメも注目されている。

2 釧路町

話題のホテルローヤルは、ここ釧路町に存在した。「地産地消センター ロ・バザール」は、釧路町の地産地消の発信基地として、特産品販売やレストランもあるのでぜひ立ち寄りたいスポット。

3 雄阿寒岳・雌阿寒岳

2011年活火山に登録された雄阿寒岳、日本百名山に数えられ現在も活発に活動している雌阿寒岳は、阿寒湖のそばに鎮座し、勇壮なたたずまいで釧路湿原を臨んでいる。

4 雄別

釧路市に合併前の旧阿寒町にあり栄えた炭鉱の町。1970年に閉山し、現在は無人となっている。2007年に経済産業省から近代化遺産に認定され、保存に向けた動きもある。

5 弟子屈町

釧路市から北へ約80kmに位置する温泉と酪農の町。摩周湖、屈斜路湖、摩周温泉、川湯温泉などが主な観光地で全国から多くの観光客が訪れる。冬場の川湯では「ダイヤモンドダスト現象」が見られる。

6 標茶町

ラブレス登場人物の一人が一時過ごした描写がされている標茶町。釧網本線のトロコ列車「くしろ湿原ノロッコ号」が釧路駅と塘路駅間に、冬季は釧路駅標茶駅間に「SL冬の湿原号」が運行されている。

7 阿寒湖温泉

発見当時はアイヌの人々の利用する温泉であったが、観光拠点として発展していったのは昭和9年の阿寒国立公園の指定から。現在は大型ホテル、比較的低価格な宿から高級旅館が軒を連ねるまでに発展を遂げた。

ワン・モア

28 ぬさまい広場

夏場は様々なイベントが催されるリバーサイドにある、市民の憩いの場。夜はLED照明でライトアップされ、レトロな雰囲気を楽しむことができる。

29 ジス・イズ

1969年オープン。ジャズ喫茶として釧路市内外から多くの集客があった。2012年惜しまれつつも閉店したが、現在は「ジス・イズEST」として文化拠点に生まれ変わり保存されている。

無垢の領域

30 市立釧路図書館

映画の上映会や各階で様々なジャンルの展示会なども行う、釧路における文学の発信基地。ホームページでは釧路ゆかりの作家たちという連載も組まれており、筆者もここで紹介されている。

31 幣舞橋

釧路を代表する観光スポットで、4人の彫刻家が制作した「四季の像」が有名。夕日をバックにたたずむ姿は、多くの観光客に人気。作中の坂の上から見た幣舞橋は、釧路を代表する景色。

32 釧路フィッシャーマンズワーフMOO

釧路市のウォーターフロントの顔ともいえる複合商業施設。ショッピングゾーン、レストラン、「港の屋台」に夏場の「岸壁炉ばた」など、観光客に人気のスポットである。

33 EGG

ガラス張りのこの建物は、一年を通して花と緑がふれる市民の憩いの場。コンサートなどのイベントが行われることもある、観光客にも親しまれているスポット。

誰もいない夜に咲く

34 太平洋炭礦 (現在は釧路コールマイン株式会社)

漁業、製紙業と並び釧路の基幹産業である石炭。作品中でも、石炭採掘と切り離せない釧路の姿が描かれている。この歴史や実際の採掘の様子を知るには、太平洋炭礦炭鉱展示館へ足を運んでみよう。

硝子の葎

35 釧路市湿原展望台

湿原に群生する「ヤチボウス」をモチーフとした建物が目印。展示室では、釧路湿原の歴史を学ぶことができる。遊歩道の先にはサテライト展望台があり、四季折々の湿原を楽しむことができる。

このマップは
釧路市観光ホームページ
からもダウンロード可能です。

<http://kankou.city.kushiro.hokkaido.jp>

